ニッポンART探訪 Vol.5

富山県水墨美術館
富山県

個性と魅力にあふれた、近代水墨画の世界を堪能

近代水墨画を中心としたコレクションで知られる富山県水墨美術館。庭園から名建築の茶室まで、日本文化の美を味わい尽くしましょう。

墨で表す森羅万象。近代水墨画の魅力とは

中国には古くから「墨に五彩あり」という言葉があるように、墨には五段階の濃淡（濃・焦・重・淡・清）があること、墨の種類（青墨・茶墨）などがあること、墨一色であっても見るものの想像力から他の色も感じとれるという様々な魅力があります。

水墨画を中心に、伝統の中で育まれた日本文化のさまざまな美を体感できる美術館として、1999年に開館した富山県水墨美術館。昭和から平成に活躍した日本画家・下保昭の作品100点が寄贈されたことをきっかけに誕生したという経緯もあり、近代水墨画を中心としたコレクションが大きな特徴です。

江戸期までは、師弟関係の中で伝統的な画題や技法が受け継がれてきた水墨画。それが明治以降、美術学校で学んだ画家たちが、遠近法などの新しい技法や、従来の日本の絵画では取り上げられなかった画題を選ぶことで、個性と魅力にあふれた作品を生み出してきました。常設展示「近代水墨画の系譜」では、横山大観や竹内栖鳳など近現代日本画の巨匠の作品を、常時約20点展示しています。

さらに常設展示では、生誕120年をきっかけに回顧展が開かれて注目された篁牛人や、同館のコレクションの礎となった下保昭など、現代の画家たちの作品も。また年に6回ほどの企画展では、絵画にとどまらず浮世絵や工芸など多彩な日本の美を鑑賞できます。

上／横山大観作『雨後之山』（1941年）。朦朧体で知られる大観が、墨の濃淡で雨後の湿った空気感までとらえた作品。
右／近代日本画の先駆者、竹内栖鳳の『鳥図屏風』（1899年頃）。竿竹の描写と躍動感ある鳥の描写が見事に融合。

伝統的な日本建築の趣きある、平屋の瓦葺き。

名建築の茶室で四季の庭と和菓子を

美術館の周囲には、自然豊かな「五福山水苑」。ゆるやかな起伏のある芝生に、伝統的な日本建築を思わせる瓦葺の平屋がしっくりと馴染んでいます。館内には約110mの廊下が通り、窓の向こうには四季折々の中庭の景色が広がります。

美術館の最も奥、南側の離れにあるのが「墨光庵」です。現代数寄屋建築の名棟梁が最晩年に手がけた茶室で、この貴重な建物を目的に美術館を訪れる人も多いとか。季節に合わせた掛け軸が飾られ、日本美術がどのように暮らしの中で息づいてきたかを体感することができます。また茶室では、お抹茶とともに企画展に合わせて富山市内の菓子匠が創作した和菓子も楽しめます。

水墨画はもとより、美術品、建築、庭、食まであらゆる面から日本の美を堪能できる美術館。文化の秋の一日を、心ゆくまで楽しんでみてはいかがでしょう。

左／昨年の生誕120年を機に再評価の声が高まる篁牛人。酒と孤独を愛した異色の水墨画家独特の表現が味わえる『四睡の図』（1969年）。
左下／にじみとぼかしの技法を駆使して雲や霧など自然界のエネルギーを大画面に描く下保昭の代表作、『白雲日月』（1971年）。

富山県出身の名棟梁・中村外二氏とその長男・義明氏が完成させた本格的数寄屋建築の茶室。秋には茶室から庭園の紅葉も楽しめる。

富山県水墨美術館

住所 富山県富山市五福777
電話 076-431-3719
料金 一般200円（常設のみ）
開館 9:30～18:00　月休
交通 富山駅から市内電車で、大学前行「トヨタモビリティ富山Gスクエア五福前（五福末広町）」下車徒歩約10分、または駅からタクシー約10分
HP www.pref.toyama.jp/1738/

9月16日（金）～11月6日（日）までは企画展「生誕150年 山元春挙展」を開催。

お楽しみ周辺SPOT 「富山の薬売り」の歴史と富山湾の「幻の魚」

「富山の薬売り」でも知られるこの地で薬種商として栄えた金岡薬店を復元した、「薬種商の館 金岡邸」。かつて薬の原料として使われた「ジャコウ鹿の香袋」を始め、薬の製造に使われた道具などさまざまな資料の他、総檜造りの豪華な建物や庭園なども見ごたえがあります。

海の幸の宝庫、富山湾で秋から旬を迎える魚が「ゲンゲ」。めったに獲れないため「幻魚」とも書き、コラーゲンたっぷりのほろほろとした身が特徴。唐揚げや天ぷらなど、市内各所でお楽しみいただけます。

薬種商の館 金岡邸

幻の魚・ゲンゲ

問「薬種商の館 金岡邸」TEL.076-433-1684